

中国鉄鋼業界の現状と今後の展開の可能性に関する調査研究

(報告書の概要)

本調査研究は、鉄鋼業界再編の動きが進む中国について、主要鉄鋼メーカー間の大型再編の動きに加え、特にわが国にとって潜在的な競争相手となりうる高付加価値鋼材の供給能力を持ちうる鉄鋼メーカーに関する基本的な状況把握を行うことで、同業界の今後の方向性を鳥瞰し、わが国鉄鋼メーカー、あるいは通商・産業政策当局の戦略構築に資することを目的としている。

調査研究の結果、中国は、2005年の粗鋼生産量は前年比25%増の約3億5,000万トンに達するなど目覚ましい成長を遂げているものの、低付加価値鋼材に生産能力・技術が偏重しており、産業集約化も進んでいないことから、産業の効率はいまだ低いことがわかった。こうした産業の非効率性が原材料価格の高止まりを招き、環境・エネルギーへの負担を高めていることも問題となっている。「国有中央企業」に分類される宝鋼集団をはじめとする大型企業を中心に、政府の主導の下、業界再編は進められているものの、地方政府との思惑の相違から、政府計画の通りに再編が進んでいるわけではないことも明らかになった。高付加価値の特殊鋼の分野では、中信泰富、中国特鋼などの民間資本を中心として実力ある企業が台頭し、原材料分野などへの投資の動きも見られる。外資による市場攻勢は活発化の傾向にあるが、こうした動きに対して政府は外資による過半数出資を規制するなどの対抗措置に出ており、外資主導の再編の動きにまでは至っていない。

以上の調査結果を踏まえて、我が国鉄鋼業は、費用対効果の高い技術提携戦略を構築し、高付加価値につながる人材研修プログラムを検討しつつ、戦略的な資本・業務提携の道筋を作り上げること、日本および現地の下請け企業との協力体制のあり方の整理検討、国際的金融投資グループとの資金面からのタイアップによる対中戦略展開などが重要であることを提言している。

(報告書の主要構成)

- (1) 中国鉄鋼産業の状況
- (2) 中国の鉄鋼政策と政策効果
- (3) 主要鉄鋼企業グループの動向と今後の展望
- (4) 主要特殊用途鋼メーカーの経営実態と今後の展望
- (5) 外資鉄鋼メーカーの中国市場浸透状況
- (6) 我が国鉄鋼業の競争力強化に向けた提言